**第1号様式**（第９条関係）

資 料 ４

**条　例　見　直　し　調　書**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 作成年度 | 令和３年度 | 次回見直し予定 | 令和６年度 |
| 条例名 | 神奈川県みんなのバリアフリー街づくり条例 |
| 条例番号 | 平成７年神奈川県条例第５号 | 法規集 | 第６編第１章第１節 |
| 所管室課 | 保健福祉局福祉部地域福祉課・県土整備局建築住宅部建築指導課 |
| 条例の概要 | 障害者等が安心して生活し、自由に移動し、及び社会に参加することができるバリアフリーの街づくりに関し、県、事業者及び県民の責務、県の基本方針並びに施設等を障害者等が安全かつ快適に利用できるよう整備を進めるための整備基準の遵守等の必要事項を定めている。 |
| 検　討 | 視　　点 | 検　　討　　内　　容 | 備　　　考 |
| 必要性現在でも必要な条例か。 | 本条例は、バリアフリーの街づくりを進めるため、県等の責務や基本方針を定め、施設整備における整備基準の遵守を課すに当たっての基本的な必要事項を定めたものである。超高齢社会において、移動に困難を抱える方の増加に対応した街づくりや、障がい者等の社会参加の促進及び共生社会との関連、それに伴う関係法令（高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律等）や県施策（ともに生きる社会かながわ憲章等）との関連にも鑑みて、施設整備等を進めて高齢者、障がい者等の円滑な移動や社会参加を実現しようとする本条例は、ともに生きる社会（共生社会）の実現に向けて、現在も引き続き必要である。 |  |
| 有効性現行の内容で課題が解決できるか。 | バリアフリーの街づくりを進める上で、公共的施設等の新築等を行う際の整備基準の遵守を規定する本条例の規定は有効であるが、今後、関連施策と連携しバリアフリーの街づくりに向けてより有効に取組を進めていくために、条例の目的として共生社会づくりの方向性を明確に示すなど、改正の検討を行う必要がある。また、規則で定める整備基準等についても、社会状況の変化（対象者の広がり、施設の利用状況、情報化等の技術の進歩等）を踏まえ、その内容や運用が実態に即したものとなるよう、改正等の検討を行う必要がある。　 |  |
| 効率性現行の内容で効率的といえるか。 | 県民の利便性向上のため、事業者や市町村の効率的な事務運営の観点から、条例に基づく事務を特定行政庁に移譲するなど、県・市相互の連携・協力により効率的に運用している。 |  |
| 基本方針適合性県政の基本的な方針に適合しているか。 | 本条例に基づく施策は、「かながわグランドデザイン」の主要施策の政策分野「健康・福祉」における施策体系「ともに生き支えあう地域社会づくり」に適合している。 |  |
| 適法性憲法、法令に抵触しないか。 | 県民及び事業者の責務や事業者の義務を課すなどの規定を有するが、条例の目的に照らして合理的なものであり、憲法や法令に抵触しないものである。 |  |
| その他 |  |  |
| 見直し結果 | １　改正・廃止及び運用の改善等の必要はない。２　改正・廃止の必要はない。運用の改善等を検討する。３　改正を検討する。運用の改善等の必要はない。４　改正及び運用の改善等を検討する。５　廃止を検討する。 | 理　由　等 |
|  |